

大阪医科大学

法人合併記念特集号
学報

大阪薬科大学

新学校法人 大阪医科薬科大学

2016年春、

学校法人大阪医科大学と学校法人大阪薬科大学は法人合併し、

「学校法人 大阪医科薬科大学」になりました。

今後は大学統合を目指します。



新学校法人 大阪医科薬科大学 合併記念

理事長 植木 實

対談

副理事長 濱岡 純治

Educational Foundation of Osaka Medical and Pharmaceutical University

系総合大学・学園へ

新学校法人 大阪医科大学 対談 大合併 記念



理事長 植木 實 副理事長 濱岡 純治

Q1. 伝統ある両法人は、受験生からの人気も高く、経営も安定していると聞いています。なぜ、あえて合併に踏み切ったのでしょうか？

濱岡 わが国における18歳人口の急激な減少が進む「2018年問題」が背景にあります。これは大学教育に携わるものには看過できないことです。将来を見据えた場合、安定した高等教育の環境を維持し、発展させるためには、単科大学から脱皮し、医療系総合大学を目指すことが必要と考えました。

植木 医学部は急激に受験者が減少するとは考えにくいのですが、優秀な医療人を育て、医学の分野で社会に寄与・貢献して

法人合併により、チーム医療を見据えた総合医療教育の実現を

学校法人大阪医科大学と学校法人大阪薬科大学は、平成28年4月1日に法人合併し、新たに学校法人大阪医科大学としてスタートを切りました。設立89年の大阪医科大学と112年の大阪薬科大学。創設経緯の異なる私立大学同士の法人合併はわが国では非常に稀といわれています。21世紀の医学、薬学、看護学の中核を担う医療人の養成を目指し、新たなステージに立った新法人の植木實理事長(前大阪医科大学理事長)、濱岡純治副理事長(前大阪薬科大学理事長)に合併の経緯や趣旨、今後の抱負などを聞きました。

いくためには、同じく医療系総合大学への展開が必要だと考えました。両法人の方向性が一致したということになります。

Q2. 法人合併の趣旨・目的をお教えてください。

濱岡 少子化が進み、人口構造が変化していくことを考えると、今のままの単科大学で生き残ることは非常に困難との認識が双方にありました。その中で大学間連携、つまり医学・薬学の連携が持ち上がりました。その後、お互いに謙譲の精神を持って多くの協議を重ね、法人合併に至りました。この法人合併により、教育・研究の高度化を図り、次世代を担う、より優秀な医療人の養成、また、医学・薬学・看護学の連携で、先進的な医療体制の構築と提供が

進められます。

植木 これまでの伝統に加え、一層特色ある学際的な教育と研究、チーム医療教育を推進し、さらに魅力ある学校づくりを目指します。併せて新生・学校法人大阪医科大学の健全な運営のための経営基盤の強化も目的としています。

Q3. 両大学の統合も目指すとのことですが、何年後をお考えですか？

植木 5〜6年先と考えています。まずは法人合併による両大学間の融合を見ながら、より質の高い教育・環境づくりを進めていきます。

濱岡 お互いの信頼感の醸成を待って、早期に大学統合を進めたいと考えています。

教育・研究と医療を中心とするCenter of Communityとして、日本有数の医療系総合大学・学園への発展を図ります。

地域医療さらに充実



一般社団法人
大阪医科大学仁泉会
理事長 河野 公一

法人合併の効果に夢をふくらませています。同窓会としてはそれぞれの持ち味を生かしつつ、「協動」していきたい。仁泉会は他の医学系同窓会などと積極的に交流を図っています。これを機に薬科大同窓会ともおおいに交流を図りたいですね。

医科大の人材育成方針は、「地域における実践的な医療」です。薬科大と一緒にすることにより、地域実践型医療の力が一層強くなります。また、医学・薬学・看護学とチームを組むことで、「地域の予防医療」への貢献もはかり知れません。

記念すべき2016年に、医学・薬学を目指して集う若者たちに私は、「リンク・グローバル、アクト・ローカリー」という言葉を贈りたい。

また、未来を担う若者世代と、歴史を積み上げてきたOB世代の交流をもっともっと進めたいですね。同窓会が手を携えて、必要不可欠な情報提供を心がけていきます。

医療看の連携で日本有数の医療

Q4. この合併で、同一法人内にある高槻中学校・高等学校に影響はありますか？

植木 目指す学校像は「次世代を担う人物を確かに育成する最優の進学校」としており、これに合わせて教育を推進していきます。具体的には、国も提唱する「高大連携・接続」や文部科学省から理科・数学に特化した「スーパーサイエンスハイスクール」の指定、「スーパーグローバルハイスクール」の指定、ネイティブスピーカーによる「英語教育の充実」が4本柱です。これらを通じ国際的に活躍できる人材を育てます。現在、「教学強化」と「共学化」に向けて、校舎の新築を含めたキャンパス整備を進めており、共学化は平成29年度からの開始を予定しています。今回の法人合併は、高槻中学校・高等学校にとっても良い活性化となるでしょう。

Q5. 新法人運営の方向性と今後の課題についてお教えてください。

植木 新学校法人の運営面では、双方の事務局の一体化・融和を進めていくことが課題になります。教職員に求めたいのは「S・D」の実践です。スタッフ・セルフ・ディベロップメントの略ですが、「自ら考え、仕事を実現し、主体的に学ぶ（自己啓発）」人材が増えれば、「大学力」の強弱化につながります。それが醸成されることで新生・学校法人大阪医科薬科大学が、いっそう魅力ある組織に変貌していきます。

濱岡 人事制度の統合に加え、教育面では、①合同授業等を通しての総合医療教育の実現②医学・薬学・看護学の融合教育やチーム医療教育による臨床教育の充実③医・薬・看や医・薬、医・看及び薬・看の共同研究での大学院教育の推進。また、研究面では、①創薬や再生医療を含む医・薬・看それぞれの基礎研究の実践②各学部間の共同研究に加えて、医療看連携による臨床研究促進が今後の課題となります。

Q6. 新法人で発展するための事業計画があればお聞かせください。

植木 前法人からの計画で、大病院の高層新棟への建て替えを進めています。その一貫として本年3月に中央手術棟が完成しました。手術室20室、ICUが個室化し16床、また手術材料室、そして心臓外科及び消化器外科病棟を設置しています。さらに、西日本では初となる次世代がん治療拠点「関西BNCT（ホウ素中性子捕捉療法）医療センター」を建設し、高度ながん治療の先端研究成果を世界に発信していきます。この施設は京都大学、大阪大学などを含め多くの大学の研究者と連携する共同利用型施設になります。また、医科大、薬科大がスクラムを組み、創薬、再生医療や医薬品が核となる産学連携の教育と研究を進めていけば、素晴らしい成果を得られるでしょう。高槻中学校・高等学校との高大連携・接続教育も推進していきます。

濱岡 これからは大病院や地域医療機関の役割も変わっていきます。時代に即した



理事長 植木 實

【略歴】 大阪医科大学卒業、同大学院修了（医学博士）。同大助手、助教を経て平成7年に教授。専門は産婦人科学。大阪医科大学附属病院長、大阪医科大学学長を経て平成22年から理事長。

副理事長 濱岡 純治

【略歴】 京都大学経済学部卒、米田デューク大学大学院修士課程（経済学）修了。日本生命総合法人第七部長、田辺三菱製薬取締役常務執行役員などを経て平成26年まで同社常任監査役。平成20年に大阪薬科大学理事、平成25年から理事長。



大阪薬科大学同窓会
会長 武枝 敏之

「総合力」に胸高鳴る

法人合併が、五輪や米国大統領選挙とも重なる「うるう年」の本年にスタートを切ります。医療看の医療系総合大学が誕生することに卒業生も胸を高鳴らせています。

同窓会はこれまで十分に時間をかけ全国15支部を回り、新体制の未来像について語り合い理解を得てきました。4月からは卒業生の応援を迫風に、大学の「後押し機関車」として積極的にサポートしていきたいと考えています。

薬科大生の特徴を一言で表すと、「真面目」。個を大事にすることはおおいに結構ですが、OBとしては「薬科大生の枠から飛び出す」ぐらいの冒険もしてもらいたいですね。医科大との合併は、そんな薬科大生の大きな刺激になるのもとより、医科大生と切磋琢磨し、ともに大きく飛躍してくれると期待しています。

今年度も夏のホームカミングデー開催、そして東京での講演会など同窓会活動をしますが、新たな歴史に一步踏み出したことをアピールしていきます。

大阪医科大学

Osaka Medical College



■設立の理念
国際的視野に立った教育、研究
或いは良質な医療の実践をとおし
て人類の福祉と文化の発展に貢献
する人材を育成する。

■学生数：1,227名
医学部/医学科：679名
看護学部/看護学科：359名
大学院/医学研究科：157名
大学院/看護学研究科：32名
(平成27年5月1日現在)

〒569-8686 大阪府高槻市大学町 2-7
Tel. 072-683-1221 (代)

■沿革
昭和 2年 「国際的視野に立つて救世仁術完成の人材を育成する」
ことを目的として設立された財団法人大阪高等医学専門
学校が前身
昭和21年 旧制「大阪医科大学」へ移行
昭和26年 学制改革により4年制医学部を有する新制「大阪医科大
学」を開設
昭和34年 大学院医学研究科を設置
昭和40年 2年制医学進学課程を併設
平成 9年 大学設置基準の大綱化に伴い6年制医学部となる
平成22年 看護学部開設
平成26年 大学院看護学研究科(前期-後期)同時設置

大阪医科大学附属病院

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7
Tel.072-683-1221(代)

健康科学クリニック

〒569-1123 大阪府高槻市芥川町1-1-1
JR高槻駅NKビル Tel.072-684-6277(代)

訪問看護ステーション

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7
Tel.072-684-6776

LDセンター

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7
Tel.072-684-6236

三島南病院

〒569-0856 大阪府高槻市玉川新町8-1
Tel.072-677-1333(代)

ケアプランセンター

〒569-0836 大阪府高槻市唐崎西1-25-1
Tel.072-677-1500

大阪薬科大学

Osaka University of Pharmaceutical Sciences



■設立の理念
進取の精神に立つて知の創造に
努め、地域に根ざした大学とし
て、医療を通じて豊かで健康的な
社会の実現に貢献する。

■学生数：1,980名
薬学部/
薬学科・薬科学科：1,958名
大学院/薬学研究科：22名
(平成27年5月1日現在)

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原 4-20-1
Tel. 072-690-1000 (代)

■沿革
明治37年 江戸時代より「葎の街」として知られる大阪市東区(現中
央区)道修町に葎種業を営む方々によって「葎種業に携
わる者若しに葎学の知識を授ける」ことを目的に創設された
大阪道修葎学校を祖とする
大正14年 「広く葎学を志す人々に葎学の専門的な知識を授ける」こ
とを目的に我が国最初の女子葎学専門学校を擁する財
団法人道修女子葎学専門学校と改称
同年10月 財団法人帝国女子葎学専門学校と改称
昭和24年 男女共学制に移行
昭和25年 戦後の学制改革に合わせて新制「大阪薬科大学」が設置
認可を受ける
昭和26年 財団法人から学校法人への組織変更認可
昭和50年 大学院葎学研究科を設置、現在に至る

高槻中学校・高槻高等学校

Takatsuki Junior & Senior High School



■設立の理念
国家・社会を担う人物の育成

■生徒数：1,571名
高槻高等学校/
全日制課程普通科：788名
高槻中学校/783名
(平成27年5月1日現在)

〒569-8505 大阪府高槻市沢良木町 2-5
Tel. 072-671-0001 (代)

■沿革
昭和15年 「将来の我が国を支える優秀な人材を育成する」ことを
目的として創立
昭和16年 高槻中学校(旧制)開校
昭和23年 学制改革により高槻中学校、高槻高等学校となる
昭和55年 高等学校校舎新築
昭和57年 本館新築
昭和59年 体育館、武道館新築
平成12年 中学校校舎新築
平成26年 学校法人大阪医科大学と法人合併
SSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定
3コース(GL/GS/GA)制の導入
平成27年 SGH(スーパーグローバルハイスクール)アソシエイト指定

MAP



ホームページ

法人ホームページを公開予定です。
今後サービス向上のため、ホームペ
ージの改善やコンテンツの
充実にも努めます。
<http://www.omp.ac.jp>



協賛御礼

記念新聞広告へのご支援に厚く御礼
申し上げます。